

# 帰宅部じゃあもったいない!

部活動を題材にした小説には“青春”の甘酸っぱさが詰まっています。読んでいくすぐったい。主人公たちの“青春”を追体験してみませんか。

 <p><b>「空への助走」</b> 壁井ユカコ／著 バレー部、軟式テニス部、陸上部、柔道部、釣り部…。部活に打ち込み、チームメイトとぶつかり、恋に揺れ動く高校生たちのまぶしい青春の日々を描く連作短編集。</p>	 <p><b>「退出ゲーム」</b> ハルチカシリーズ 初野 晴／著 廃部寸前の弱小吹奏楽部で、吹奏楽の甲子園「普門館」を目指す、幼なじみ同志のチカとハルタ。音楽教師・草壁先生の指導のもと、吹奏楽の“甲子園”普門館を夢見る2人に、難題がふりかかる。</p>	 <p><b>「チームふたり」</b> 吉野万理子／著 卓球部のキャプテン大地は小学校最後の試合で最強のダブルスを組みたかったのに5年生の純と組むことに。納得のいかない大地だが、それどころではない「事件」が、学校でも家でも起こってしまう。それらを乗り越えて、大地が見つけた「チームふたり」のカタチとは？</p>
 <p><b>「ランナー」</b> あさのあつこ／著 長距離走者として将来を嘱望された高校一年生の碧李は、家庭の事情から陸上部を退部しようとする。だがそれは、一度レースで負けただけで、走ることが恐怖となってしまった自分への言い訳にすぎなかった。</p>	 <p><b>「ラブオールプレー」</b> 小瀬木麻美／著 名門・横浜湊高校バドミントン部に入学した水嶋亮は、実力派の先輩たちなど個性豊かなチームメイトたちが。かけがえのない仲間を得た水嶋は、さらなる高みへと挑んでいく。爽やかで熱い、青春バドミントン小説。</p>	 <p><b>「あと少し、もう少し」</b> 瀬尾まいこ／著 部長の柊井は、中学最後の駅伝大会に向けてメンバーを募り練習をはじめが…。寄せ集めの6人は県大会出場を目指して、襷をつなく。あと少し、もう少し、みんなと走りたい。涙が止まらない、傑作青春小説。</p>
 <p><b>「走れ! T校バスケット部」</b> 松崎 洋／著 中学時代、バスケ部キャプテンとして関東大会二位の実績を残した陽一は、強豪私立H校に特待生として入学。だが部内で激しいイジメに遭い自主退学する。失意のまま都立T校に編入した陽一だが、個性的なクラスメイトと出会い、弱小バスケット部を背負って立つことに。</p>	 <p><b>「快晴フライング」</b> 古内一絵／著 廃部寸前の弓が丘第一中学水泳部。代表選手の龍一は「水泳部を再建して、メドレーリレーで大会優勝してみせる」とタンカを切るが、残っていたのはダメダメな部員ばかりで…。表題作ほか、短編「夏のエール」を併載。</p>	 <p><b>「グラツィオーソ」</b> 山口なお美／著 弱小吹奏楽部に所属する彩音たちの前に謎の女性教師・水嶋日名子が赴任してきた。先生の厳しい指導で生まれ変わった修南高校吹奏楽部は、吹奏楽の甲子園・普門館への出場権に挑む。</p>
 <p><b>「晩夏のプレイボール」</b> あさのあつこ／著 高校1年生になった桃子は、短歌を詠む「うた部」に入部する。でも、不登校になったままの親友の綾美に対して部活のことを言い出せない。そんなある日の放課後、うた部で短歌甲子園に出場しようという話が持ち上がる。</p>	 <p><b>「2.43 first season 清陰高校男子バレー部」</b> 壁井ユカコ／著 田舎の弱小男子バレーボール部に、東京の強豪校からワケあり選手がやってきた。目指すは全国! まぶしいほど純粋、てれくさいほどまっすぐな青春小説</p>	 <p><b>「サッカーボーイズ」</b> はらだみずき／著 幼い頃から柔道に打ち込んできた大学1年の晴希は、怪我をきっかけに柔道部を退部。同じころ柔道をやめた一馬はある理由から、大学チアリーディング界初の男子のみのチーム結成を決意する。笑って泣ける長編スポーツ小説。</p>
 <p><b>「一瞬の風になれ」</b> 佐藤多佳子／著 サッカーに限界を感じた新二と、やる気のない天才スプリンター連。とくに強豪でもない春野台高校陸上部に入部した幼なじみの2人。それがすべての、始まりだった。思わず胸が熱くなる、とびきりの陸上青春小説。</p>	 <p><b>「桐島、部活やめるってよ」</b> 朝井リョウ／著 バレー部のキャプテン桐島が、突然部活をやめた。それがきっかけで、同じ高校に通う5人の生活に、小さな波紋が広がり…。野球部、バレー部、映画部といった部活をキーワードに、至るところでリンクする5人の物語。</p>	 <p><b>「オン・ザ・ライン」</b> 朽木 祥／著 体育会系だが活字中毒の少年・侃は、仲よくなった友だちに誘われてテニス部に入るようになった。テニス三昧の明るく脳天気な高校生活が、いつまでも続くように思えたが…。少年たちのあつい友情、そして明日への希望の物語。</p>